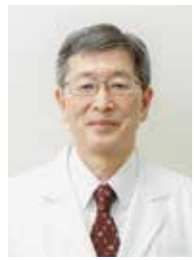


新任副院長紹介



よしだ ひろゆき
吉田 博之
令和8年5月1日付で副院長を拝命いたしました。地域医療連携・医療社会事業活動・教育研修・労務を担当いたします。地域完結型医療の推進に向け、先生方との「顔の見える連携」をより一層深めてまいりたいと存じます。患者さんが安心して地域で療養・生活できるよう、病診連携の充実に努めてまいります。至らぬ点も多いかと存じますが、先生方のお力添えをいただきながら精一杯努力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任院長補佐・部長・副部長紹介

■新任院長補佐



かどの よしゆみ
角野 佳史
院長補佐(がん診療担当)兼
腎センター長兼
第1腎臓・泌尿器科部長



おおさわ ゆうこ
大澤 陽子
院長補佐(労務担当)兼
第1耳鼻咽喉科部長



うちだ かずみ
内田 一美
院長補佐(教育研修担当)兼
看護部長

■新任部長



とりこし さだはる
取越 貞治
免許取得年/平成20年



やまざき ひろあき
山岸 弘哉
免許取得年/平成21年

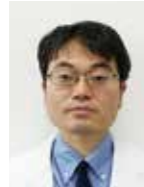


すずき やすのり
鈴木 康倫
免許取得年/平成18年

■新任副部長



おかえ ゆう
岡江 優
免許取得年/平成23年



おかだ のぶひさ
岡田 信久
免許取得年/平成26年



こうの ひろこ
河野 紘子
免許取得年/平成22年



しまだ みちあき
嶋田 通明
免許取得年/平成22年



こやま けいすけ
小山 佳祐
免許取得年/平成25年

AI問診導入のお知らせ

当院では、初診時に患者さんにご記入いただいていた紙の問診票の代わりに、タブレットやスマートフォンから入力できる「AI問診」を5月中旬より導入します。

連携医療機関からご紹介いただく患者さんは、スマートフォンをお持ちの場合、受診前にご自宅等で回答いただくことで、来院後の手続きや診察を円滑に進めることが可能です。なお、来院後に院内のタブレットを使用して入力していただくことも可能です。

AI問診は、画面に表示される質問に対して、複数の選択肢の中から該当する項目を選択して回答する方式で、すでに導入している他施設においても、多くの患者さんが大きな支障なく利用されていると報告されています。患者さんの回答に応じて内容が調整され、症状や既往歴などの情報が整理された形で取得されます。これらの情報は診察時に医師が確認し、診療の参考として活用されます。

本システムは、一部の診療科から開始し、段階的に運用を進めていく予定です。

連携医療機関の皆さまにおかれましては、本取り組みへのご理解とご協力をお願い申し上げます。



行事予定

令和8年度 地域医療連携の会 役員会・懇談会

日時/令和8年7月8日(水)18:45～役員会 19:15～懇談会
会場/ザ・グランユアーズフクイ

第12回消化器カンファレンス

日時/令和8年8月1日(土)15:30～
会場/コートヤード・バイ・マリOTT福井

地域医療連携課の紹介

令和8年4月よりメンバーが変更となりました。今後とも、先生方のご意見、ご要望を真摯に伺いながら、地域医療連携の推進に努めてまいります。



左から
社会福祉士
片岡 舞帆
地域医療連携課長
酒井 雅枝
副院長(地域医療連携)
吉田 博之
主事
飛田 愛実

Partner

福井赤十字病院連携通信(パートナー)

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.086 令和8年5月発行



「福井桜まつり」撮影/写真部リハビリテーション科部 中山泰博

紹介予約の利便性向上に向けたWeb予約の導入について

当院では、紹介患者さんの予約手続きをより円滑に行うことを目的として、地域医療連携Web予約システム「すいSUIねっと福井」の導入を決定しました。本システムは、県立病院との共同運営で6月下旬の運用開始を予定しています。

診療科や担当医に応じた予約の空き状況を確認しながら、オンライン上で予約申し込みが可能となり、診療時間外でもお手続きいただけます。

Web予約は、あらかじめ設定されたルールに基づいて運用することで、当日の診療がより円滑に進むことを目指しています。お手数をおかけしますが、予約時には各診療科の注意事項をご確認いただきますようお願いいたします。なお、急を要する症例やWeb予約の対象外となるケースについては、従来どおりお電話またはFAXにてご連絡ください。

現在は、一部の医療機関でプレテストを実施しており、使いやすさや改善点についてご意見をいただきながら準備を進めております。

今後も、現場の実情に沿った形での調整を行い、ご紹介がよりスムーズになる連携体制を構築してまいります。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「すいSUIねっと福井」名称の由来

福井県の花・水仙(SUI)をモチーフに、Seamless Unified Inter-hospital Network の頭文字を組み合わせ、紹介予約や情報連携が「すいすい」と途切れなく進むネットワークを願って名付けました。

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間/平日 8:15～18:30、土曜 8:30～12:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)



https://www.fukui-med.jrc.or.jp
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp
連携通信第86号発行 令和8年4月 福井赤十字病院



くも膜下出血を予防する — 脳動脈瘤治療の進歩 —



脳神経外科 部長
福光 龍

脳動脈瘤の治療

くも膜下出血は依然として致死率・後遺症率の高い疾患であり、その原因のほとんどは脳動脈瘤の破裂によるものです。そこでくも膜下出血の予防には未破裂の段階での適切な評価と治療介入が重要です。未破裂脳動脈瘤は大きさや部位、形態や患者背景などを踏まえて治療適応を判断します。

治療は、開頭術(開頭クリッピング術)や血管内治療があり、侵襲性の観点から血管内治療の割合が増加しています。血管内治療には、従来から行われているコイル塞栓術に加え、近年はフローダイバーター(図1)やW-EB(Woven EndoBridge、図2)といった新しいデバイスが使用可能となり、治療の選択肢が大きく広がっています。

フローダイバーターは、血管内に高密度のステントを留置することで動脈瘤内への血流を減少させて血栓化を促進する治療法であり、特に大型の脳動脈瘤に有効です。W-EBはバスケット型の塞栓デバイスで、これまでステントを必要としていた脳動脈瘤に留置することができ、抗血小板薬を早期に中止することが可能です。このように、個々の脳動脈瘤に応じた治療戦略を選択できるようになってきました。

(図1) フローダイバーター (Pipeline)



画像提供: 日本メドトロニック株式会社

(図2) W-EB



画像提供: テルモ株式会社

新血管撮影装置の導入

当院では2026年1月より、Philips社製の血管撮影装置「Azurion 7 B20/15」を導入し、新しい血管撮影室が稼働しております。画質が向上したほか、大幅に放射線の被曝量が減少し、より精密かつ安全に脳血管内治療を行うことが可能となりました。また、さまざまな新規デバイスにも十分対応できる体制を整えて治療の品質と安全性を確保しています。

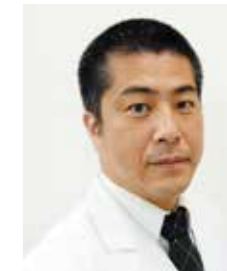
今後に向けて

未破裂脳動脈瘤に限らず、急性期脳梗塞に対する血栓回収術や頸動脈ステント留置術など、ここ数年で脳血管内治療は大きく進歩しています。これからも、福井県内における脳卒中診療に引き続き取り組んでいきたいと思っております。

(図3) 新血管撮影室



肝臓疾患に関する治療について — ロボット支援手術 (da Vinci Xi) による低侵襲治療への挑戦 —



消化器外科 副部長
小山 幸法

肝臓・胆道・膵臓領域の疾患は解剖学的に複雑であり、周囲の重要血管との位置関係から高度な技術を要します。当院では消化器センターおよびがん診療センターが中心となり、各専門科が「One Team」となって集学的治療に取り組んでいます。

当院の肝臓疾患治療 3つの強み

①症例に応じた治療アプローチ： ロボット支援手術の活用

当院では手術支援ロボット「da Vinci Xi」を導入しています。高精細な3次元画像による立体的な視野と、手ブレ補正・多関節機能を持つ鉗子により、緻密でスムーズな操作が可能です。私たちは、低侵襲なロボット支援手術のメリットを最大限に活かすため、病変の進行度や解剖学的条件、患者さんの全身状態を詳細に検討した上で、ロボット支援手術、従来の腹腔鏡手術、あるいは確実性を重視した開腹手術の中から、安全で根治性の高い術式を選択しています。

手術支援ロボット「da Vinci Xi」がもたらす革新



②がん診療センターを中心とした 集学的治療の提供

肝臓がんなどの難治性疾患に対し、外科的切除のみならず、薬物療法や放射線治療を組み合わせた治療を行っています。当院は「がんゲノム医療連携病院」に選定されており、標準治療で十分な効果が得られない症例に対しても、遺伝子変異に基づく治療薬の選択を検討できる体制を整えています。各領域の専門知識を結集し、患者さんに合わせた多角的なアプローチを行っています。

③専門診療科と地域を繋ぐ 「横串」の診療体制

肝臓疾患の診療では、消化器内科や放射線科、さらには総合診療科などが密接に連携する「横串の視点」を大切にしています。特定の臓器のみならず、合併症や併存疾患を持つ患者さんに対しても、病院全体で包括的に診療できるのが当院の特徴です。

地域の先生方との連携を深め、精査から術後のフォローアップまで、切れ目のない医療提供を目指しています。

地域と繋がる「二人主治医制」の推進



先生方へ — ご紹介のお願い

肝腫瘍や肝機能異常、腫瘍マーカーの上昇、あるいは黄疸や腹痛などの症状を認める患者さんがおられましたら、ぜひ当院へご紹介をご検討ください。ロボット支援手術の適応判断を含め、症例ごとに適切と考えられる治療方針を提案し、再び先生方の外来へ安心して通院していただけるよう、誠心誠意努めてまいります。